



猫空



SNET台湾 みんなの台湾修学旅行ナビ
https://taiwan-shugakuryoko.jp/spot_north/659/



エリア

台北市

テーマ

食文化

猫空

台北市街から気軽にアクセスできる、お茶文化・自然・夜景スポット

台北盆地の端、二各山系に位置する猫空は、台北市内が一望できる景勝地です。2007年に台北捷運文湖線の動物園駅を起点とする「猫空ロープウェイ」が開通し、終点の猫空駅まで4.03キロ、約30分の空中旅行を楽しめるようになりました。古くは台北市内最大のお茶の産地であり、多くのレストランや茶芸館で、眼下に茶畑を眺めながら、お茶やお茶の葉を使った茶葉料理を楽しめるのも魅力です。台北市街からのアクセスもよく、気軽に外かけて台湾の自然を感じられる場所で、一味違った小旅行を楽しめそうです。台北有数の夜景スポットでもあります。

学びのポイント

1.

どうして「猫空」っていうの？

最も有力なのは、川が岩を削る事でできた「壺穴」と呼ばれる凸凹地形が猫空の地理の特色であるため、でこぼこを意味する台湾語の「猫面」(猫の顔)が変化して「猫空」となったという説。また他にも、ハクビシン(台湾語ではbâと発音)が入り出る山谷(khang)という音から、同じ台湾語の音で「猫空」となった説があります。日本統治時代が始まったばかりの頃の地図には、猫空はカタカナで「バーカン」と記載されています。ちなみに、「猫」の台湾語の発音は、「bâ」(バー)もしくは「niau」(ニャウ)です。

2.

お茶の製造過程や文化を知ろう

猫空は、「鉄観音」という種類の茶葉の栽培が台湾で最も古く始まった場所です。清朝末期に、今の中国福建省安溪より鉄観音の苗木が持ち込まれ栽培が始まったと言われています。台湾各地で栽培されている茶葉や、鉄観音ができるまでの製茶の作業工程について詳しく知ることが出来るのが、ロープウェイ「猫空」駅から徒歩20分ほどの「台北市鉄観音包種茶研発推广中心」(参観無料)です。ここは台北市が運営するお茶の展示センターで、乾燥から発酵、揉み込みなどの複雑な製茶過程を知ることができます。その後にレストランやカフェを訪れて、歴史や受け継がれてきた文化を感じながら台湾茶を味わうのは格別です。